

サクマ・シャルゲイ

1. 事業実施の目的

博士論文を作成ためのデータ収集

2. 実施場所

- ① 札幌
- ② 旭川市 (北海道)
- ③ 稚内市 (北海道)

3. 実施期日 平成 29 年 10 月 1 日 (日) から 10 月 31 日 (火)

4. 成果報告

●事業の概要

報告者は、サハリンからの日本人永住帰国者とその家族の日常生活におけるメディア利用とコミュニケーションのあり方を研究テーマにしている。今回は、永住帰国者の第 1 世代 (高齢世代) を中心に、北海道の札幌、旭川、稚内で調査を行った。

まず、永住帰国者のコミュニティのメディア利用とコミュニケーションのあり方について 10 月 1 日から 10 月 7 日にかけて札幌で調査を行った。NPO 法人日本サハリン協会は、サハリン残留邦人の一時帰国事業を年に二回行っている。今回は、10 月に行われていた本事業に通訳者として参加した。札幌の永住帰国者と NPO 法人日本サハリン協会との関係性を観察しながら、永住帰国者のコミュニティの中のコミュニケーション、日本語教育、帰国に関わる歴史的背景、日常生活についてデータを収集した。

また、札幌の帰国者の日常生活と密接な関係をもっている北海道中国帰国者支援・交流センターと NPO CaSA (Child-assist Sapporo Association) の土曜ロシア学校について 10 月 20 日～31 日まで調査を行った。具体的にパイチャゼ助教 (北海道大学のメディア・コミュニケーション研究院) に主催された土曜ロシア学校を訪問し、永住帰国者の第 3・4 世代である子供たちのロシア語教育に参与観察した。永住帰国者に対する日本政府の支援に関しては、北海道中国帰国者支援・交流センターにおいて、永住帰国者への支援活動に関わる相談員たちに聞き取り調査を行い、北海道の永住帰国者のための日本語教育、交流会、共通イベント、地域ネットワーク事業に関するデータを収集した。

稚内では、10 月 8 日～10 月 18 日まで調査を行った。具体的に NPO 法人日本サハリン協会の稚内担当者、永住帰国者に日本語を教えている語学教師、永住帰国者の 6 名にインタビューし、さらに二つの永住帰国者の家庭に滞在し参与観察を行った。上記の調査

活動を通して、稚内の帰国者の高齢世代におけるメディア利用、コミュニケーションのあり方、日本語教育、稚内の帰国者のコミュニティの共通イベントの実施状態をある程度、把握することができた。

旭川では、10月18日～20日まで2017年に帰国したばかりの家族にインタビューし、彼らのメディア環境に関するデータを収集した。この家族は、固定電話等のかつて必要だったメディアを持たず、スマートフォンをたよりに、日本での生活を始めた。札幌、稚内のインフォーマントがインターネットはまだ普及していない時代に帰国したわけであり、旭川の家族はこれらと比較する価値がある。

#### ●本事業の実施によって得られた成果

サハリンからの永住帰国者とその家族への支援に関しては、北海道中国帰国者支援・交流センターの相談者と通訳者への聞き取りや同センターの事業報告から、支援制度は、厚生労働省の下に、中国帰国者支援・交流センターが中心となり、各地方の自治体や市民団体と連携して機能していることがわかった。上記の支援内容は、主に経済的支援、教育（日本語、パソコン）、医療、生活・就労の相談、地域ネットワークなどの事業を含む。

サハリン帰国者のメディア利用とコミュニケーションのあり方に関しては、札幌、稚内、旭川におけるサハリン帰国者への聞き取りから、彼らはどのような言語でいかにメディアを使用しているのか、日本国内と海外でどのようにコミュニケーションを行っているのかを明らかにすることが可能となった。インフォーマントは、言語状態に応じて、ロシア語（主として印刷物やインターネット上のメディア）、日本語（主に放送メディア）、韓国語（主にテレビ）でさまざまなメディアを使用している。また、日本国内では個人、家族と支援団体レベルにおいて固定電話、ファックス、携帯電話を使用しており、国際とのコミュニケーションの場合、インターネット上のメディアを使用している。

これらの成果は、平成29年度の総研大文化フォーラム（国立歴史民俗博物館）において「サハリンからの永住帰国者の高齢世代のメディア利用とコミュニケーション」というテーマでのポスター発表を行ったほか、2017年12月7～8日に行われた若手研究者奨励セミナー（国立民族学博物館）で「サハリンからの永住帰国者の高齢世代のメディア利用とコミュニケーション」という題で発表した。また、上記のフィールドワークで得た成果は、2018年度前期の論文ゼミナールにおいても発表する予定である。

#### ●本事業について

2017年10月に学生派遣事業を活用させていただいたことで、北海道の札幌、稚内、旭川における調査を行うことができた。これにより、インフォーマントや帰国者の支援に関わる団体とのつながりを築いて、さらなる本格的フィールド調査のための基盤を作ることができた。そして博士論文参執筆に必要なデータを収集して、研究を一步前に進

めることができました。深く感謝いたします。